

「市独自の連携型小中一貫校」には説明が必要

定期的に説明していく

質 教育の充実についても重点施策で、市独自の連携型小中一貫校を「実現します」とあるが、市民や保護者などに説明がなされていない。市の考え方を伺う。

この朝地小・中学校の3年間の研究成果を基に、平成27年度から市内の小・中学校に「連携型小中一貫教育」を順次拡大していきます。また、定期的に説明していきたく考えています。

答 市長 モデル指定校の朝地小・中学校の保護者や学校評議員の方々に随時説明を行ってきました。しかし、全市的に説明ができていないことは議員ご指摘のとおりだと認識しています。



朝地小・中学校

防災士をリーダーに、自主防災組織体制をどのように考えるか

～「自助・共助による地域防災力の充実・強化」を図っている～

質 最近、多くの防災士が誕生したが、この防災士をリーダーに、地域の実情に応じた自主防災組織体制をどのように育成、活動の活性化を図り、取り組もうとしているのか。

答 市長 本市には200人近い防災士の方がおられます。

既に防災士の中には、これまでの経験などから組織の代表者などと協議をして避難訓練を実施したり、訓練の計画を立てたり、組織体制の見直しに着手したりと、自分の地区、防災組織、施設の状況に応じた取り組みを実践されている方もおられます。これからは、防災士の中でも指導的・リーダー的立場となる人材の養成を図りたいと考えます。



市民クラブ 衛藤 竜哉

県道や幹線市道などの整備が急がれるが

～平成29年度までに完成する計画～

質 中九州高規格道路が、平成26年度に朝地インターチェンジまでの供用開始と示されたが、それらを補完する県道や幹線市道などの整備が急がれるが、考えを伺う。

答 市長 県道については、緒方朝地線の猿飛橋から小野トンネルまでの約1200mを平成28年度までに、緒方大野線の津留・両家間の約2300mを平成27年度までに完成する計画で、大分県豊後大野土木事務所において整備を進めています。

市道については、南部幹線を宮生公民館から堀家幹線までの約1800mを平成20年度に着手し、平成29年度までに完成する計画で整備を進めています。



県道緒方大野線

地域支援員制度の地域住民との取り組みは十分か

～地域活性化をさらに推進する～

質 まだ地域と行政との距離が遠く感じる。市民ニーズに応え、距離を縮めるために、どのような取り組みが必要か。

答 市長 地域の抱える課題などを精査し、市民の皆さまが課題を共有しながら地域だけで解決できる課題や、市と地域が一緒になって取り組む課題、市が主体となって取り組む課題など、市と市民が取り組む内容を役割分担することで、効率よく効果的に課題解決につながり、市民の安全、安心な生活の確保や地域活性化をさらに推進することができそうです。

質 平成24年度から地域支援員制度を活用し、コミュニティの活性化を図っているが、まだ

※その他の質問
・介護予防の推進の取り組みや課題は
・公共施設の見直しについて